

介護施設の現状と課題



2022/9/30

JACARIN 理事 西部雅彦

介護レベルの目安

介護レベル	内容
要支援 1	日常生活の基本的な動作は、 ほぼ自分でできるが、少しの介助を必要とする 、また現状を悪化させないように日常生活になんらかの支援が必要である状態
要支援 2	要支援の状態から、手段的日常生活を行う能力がわずかに低下し、 何らかの支援が必要 となった状態（介護サービスで現状維持や改善が見込める）
要介護 1	要支援 2 の状態から、手段的日常生活を行う能力が一部低下し、 部分的な介護が必要 となった状態（排泄や入浴に一部介護が必要）
要介護 2	要介護 1 の状態に加え、 立ち上がりや歩行が自力で困難 となり介護が必要となった状態
要介護 3	要介護 2 の状態から、日常生活動作や手段的動作が著しく低下し、 ほぼ全面的な介護が必要 となった状態。 自力歩行はほとんどできない 。
要介護 4	要介護 3 の状態から、さらに動作能力が低下し、 介護なしでは日常生活を送ることが困難 となった状態
要介護 5	要介護 4 の状態から、さらに動作能力が低下し、 介護なしでは日常生活を送ることが不可能 な状態

通所介護（デイサービス）

デイサービスとは

- ・介護保険サービス「**通所介護**」の通称です。
- ・利用者は自宅で生活しながら日帰りで施設に通い、体操や食事、入浴などのサービスを受けられます。老人ホームのように移り住む施設ではありません。



お迎え



食事・入浴



機能訓練・レクほか



ご自宅にお送り



介護施設（居住）の種類

民間施設

公的施設

<p>介護付き有料老人ホーム</p>	<p>本格的な介護や生活支援から、広範なサービスを入居者の状態に合わせて提供する施設。</p>	<p>ケアハウス</p>	<p>経済的な負担が比較的小さい「軽費老人ホーム」の一つ。 自宅での単身生活に不安を覚えたり、家族の協力を受けられないという事情を持つ高齢者向けの施設</p>
<p>住宅型有料老人ホーム</p>	<p>介護が必要ない自立している方からある程度の要介護度がある方まで幅広い層の方が入居する施設。生活を充実させるためのイベントやレクリエーションが充実。</p>	<p>特別養護老人ホーム</p>	<p>「要介護3以上」の認定を受けている方が対象の施設。介護保険によって低価格でサービスを受けることができ、看取りまで対応可能。</p>
<p>サービス付き高齢者住宅</p>	<p>介護施設ではなく、あくまで高齢者の住宅という位置づけで扱われる。外出や外泊できるケースが多く、自由度の高い生活をおくれる点がメリット。</p>	<p>介護老人保健施設</p>	<p>退院後すぐに在宅生活に復帰できない状態の高齢者が、数カ月程度滞在することを目的とした施設。リハビリを重視している人に適している。</p>
<p>グループホーム</p>	<p>認知症の方が5人から9人程度の少人数でユニットをつくり、専門職員からサポートを受けながら共同生活をする施設。</p>	<p>介護医療院</p>	<p>新しく創設された施設で、要介護者の方のなかでも特に医療ニーズが高い方に対応できる施設。</p>

介護施設の種類と対象

種類	運営	自立	要支援 1～2	要介護 1～2	要介護 3～5	認知症	認知症 重度	看取り	入居の しやすさ
介護付き有料老人ホーム	民間施設	△	△	○	◎	◎	◎	◎	○
住宅型有料老人ホーム		△	○	◎	○	○	△	○	○
サービス付き高齢者住宅		○	◎	◎	○	○	△	△	○
グループホーム		×	△ 要支援2～	○	○	◎	◎	△	△
ケアハウス	公的施設	○	○	△	△	△	×	×	△
特別養護老人ホーム		×	×	×	◎	○	○	○	×
介護老人保健施設		×	○	○	○	○	○	○	△
介護医療院		×	○	○	○	○	○	◎	△

注) ◎充実した対応 ○受け入れ可 △施設により受け入れ可 ×受け入れ不可
※ 地方自治体により若干違いがでる場合があります。

介護施設の現状と課題 ①

1. 慢性的な人手不足

- 公益財団法人介護労働安定センターが実施した「令和元年度介護労働実態調査」では、65.3%の事業所が人手不足を感じている。
その原因は、急激な高齢化社会到来で介護施設も急増したが、働き手の総数はあまり増加していないことにより施設間で取り合い状態。
- 少子高齢化により、高齢者の人口が急増している
しかしながら、支える働き盛りの人口は減少
(2025年 後期高齢者は2180万人、働き手はその時点で約30～40万人不足すると予想)
- 高齢者介護の現場は、4K（汚い、キツイ、危険、給料が安い）
のため人気がなく、なり手が少ない。
(R2年 介護福祉士の平均年収は約395万円、資格なし者は約310万円)

介護施設の現状と課題 ②

2. 介護職員の定着率が低い

①職員間の人間関係で悩む人が多い

介護士と看護師、有資格者と無資格者、正社員か否かなどで、待遇の差が大きく、徐々に不満がうっ積し、ひがみ・ねたみ・そねみ恨みなどが発生しやすい
⇒若い人が将来を悲観して早期に転職する

②労働条件が悪いことに就業してから気が付く

- ・ 仕事内容の割には賃金が低い
- ・ 身体的負担が大きい
(入浴介護や排便補助など体を支える仕事が多い)
- ・ 有給休暇が取りにくい
- ・ 精神的にきつい(入居者や家族からのクレームなど)
⇒理想と現実の差が大きく、転職してしまう。



介護施設の現状と課題 ③

3. 介護難民の増加

- 介護難民とは、介護施設に入りたくても入れない人をいう。
- 高齢化に伴い介護従事者が不足し、介護施設はあるが医療ケアが必要な人に対応できる職員がいないことで、施設に入居できず介護難民が生まれている。
- 介護従事者が、介護が必要な人に対応できる人材に成長する前に離職してしまうことも、このような現状を生んでしまう原因の一つ。



介護施設の現状と課題 ④

4. 介護報酬に頼った経営

- 介護施設は、介護保険から支払われる介護報酬に頼っている。
収入は介護報酬がほとんどであり、報酬が支払われる条件ぎりぎりです施設運営をしているところが多い。
⇒人的な余裕がなく、外部講習会などにも人を出せない
新たな試みをしたくても、原資がなく、介護報酬の対象になるものだけに取組みざるを得ない
- 介護報酬は3年ごとに改定されるため、対応するだけで精一杯。
介護保険料で、社会的ニーズの高い介護への報酬増額や、介護職員の給与補助などを行うため、代わりに報酬が減額されるものもある。
⇒独自の介護方法がとりにくい



課題を解決するために

・ 上述の問題点を解決するために必要なこと

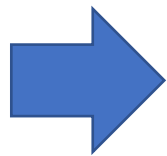
- ①忙しい中でも、ミーティング実施や施設長による個別面談などを行い、ねぎらいをするとともに悩みを聴くなどして、組織内のコミュニケーションを活性化する。
- ②施設内の人員配置や担当職務の見直しなどを積極的に進めて、不満が溜まらない職場環境を作る
- ③介護職員の教育を積極的に行い、資格取得などを奨励する
- ④職員全員が介護保険制度をよく理解し、報酬の内容を把握し、入居者に最適なサービスを効率よく提供できる体質とする



最後に 家庭での介護の問題点 ①

1. 老老介護・認認介護の増加

- 老老介護とは、高齢者の介護を高齢者が行っていること。
老老介護は、精神的な負担もあり、それがストレスになって非介護者への虐待に繋がることも少なくない。
- 認認介護とは、高齢の方が自分が認知症であることに気づかず、
認知症の家族の介護を行うこと。
非介護者に食事を与えたか、排泄をさせたかなど介護者本人が分からなくなることもある。



なるべく早く、介護施設に入居できるよう、
地域包括支援センターに相談が必要

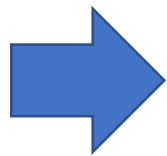
最後に 家庭での介護の問題点 ②

2. 家族が認知症を認めない

多くのご家族の場合、自分の父母や祖父母が認知症であるにもかかわらず、それを認めない傾向が強い



- 自分の父母に限って、認知症になっているはずはない
- 毎日一緒にいるのに変わったことはない
- 一人暮らしの親が認知症になったら、自分たちの生活を変えねばならないので、何か問題が露見した時に考えれば良い。それまではこのままそっとして過ごしたい。



高齢であれば、介護認定を受けてみるという姿勢が必要